

# 「全ては患者さまのために」

## 中国の伝統医学「鍼灸・漢方・推拿」を柱とした医療

### 奈良市 登美ヶ丘治療院 野口 創院長に聞く

慢性疾患の治療や予後の療養として、西洋医学とともに鍼灸(しんきゅう)・漢方などの東洋医学を併用する「統合医療」が注目されて久しい。欧米諸国と比べて遅れが目立つ日本での統合医療を一步も二歩も進めようと、平成10(1998)年に奈良市登美ヶ丘に開業した登美ヶ丘治療院は今年8月、大阪市中央区に大阪院を開業させた。コロナ禍にあって、患者目線で地域の医者との対面での交流を図り、まだ発症していない病の段階で、鍼灸・漢方と中国医学式全身マッサージ「推拿(すいな)」を取り入れた予防医療を施す。日本にたった一つの「地域の統合医療」を实践、「全ては患者さまのために」を経営理念とする野口創院長(51)に話を聞いた。



「全ては患者さまのために」を経営理念にする野口創院長

と聞いています。東洋医学では胃が縮みやすいとか、胃が冷えているとかカメラでは映らないものを特定できるのです。西洋医学はあまり問診に時間をかけなくなってきたりします。検査に頼りすぎてくるからです。仮に胃が冷えているのであれば、東洋医学では胃を温める生薬を処方して症状を緩和させます。確かに胃壁には異常はありません。ですが痛みは感じていたわけです。

**「西洋の医療は病気を診る、東洋の医療は患者を診る、という部分ですね。院長は中国で医療の勉強に励まれたそうですね。」**

中国の前にカナダでも勉強しました。カナダは中国人も多いです。資格を取り、カナダの東洋医学のクリニックで働いている時の同僚が中国から来た先生でした。僕は日本の学校の医学部で6年間勉強しましたが、中国の先生はそれをほるかに上回るくらい勉強されていました。僕はその差を感じて、中国へ勉強をしに行こうと決意しました。

**「元々、東洋医学に興味があったんですね。」**

大学受験の際、姉が医学部に在籍しており、僕も医学部に進学しろと言われていました。ただ、姉と同じことをするのはどうかという小さな発心から鍼灸の道へ進みました。資格を取って日本で働くようになった時、日本の鍼灸の環境は今もそうですが、あまり良くなって、なかなか食べていけないというのが

現実です。その原因は、カナダに行っても思ったのですが勉強不足です。3年、4年で免許を与えられてインターンもなく放り出されます。日本の医療制度の問題ではありませんけど、中国では東洋医学、西洋医学問わず一つの同じ医師免許なんです。中国では東洋医学を専攻する方でも、日本の西洋医学を志す方と変わらないくらい勉強されます。東洋医学から西洋医学へ、あるいは西洋医学から東洋医学へ変更することも可能です。もちろん研修は受け直しますが。

同じ病院の中で西洋医学も東洋医学の科が混在しています。保険も利いて東洋医学での入院も可能です。カナダのクリニックの中国出身の先生は、そんなので僕との差は歴然です。なので、僕も中国で勉強したいと思いました。

**「野口院長は中国語の本の翻訳を2冊、手掛けられています。中国語が堪能なのですね。」**

中国語が話せないで大学に編入できません。専門書の翻訳になると、その専門書の内容が分からないという翻訳できません。医療関係の特殊な単語が多いですし、それに該当の日本語も知っていないといけません。

**「治療院を登美ヶ丘の駅前から、現在の場所へ移された理由は。」**

駅前ですと経営するつもりでバリアフリーにもしていたのですが、降車場が決まっていたんです。10分ぐらいの距離ではあるのですが、治療院の前まで車を寄せることができました。元気な方であれば問題のない距離ではあります。

ない距離ではありませんが、腰や膝の痛い方にとっては大変な距離になります。今の場所であれば、治療院の目の前に駐車していただければ、すぐに中に入ってもらえるので、この場所に決めました。

**「スタッフへの教育は。」**

スタッフ7人全員、国家試験に合格した有資格者です。鍼灸はインターン制度がないので、免許を取って出てくる学生に比べては学ぶ場が少ないです。ですから、勉強会を開き実技の指導を行い、ある程度のレベルに至れば、患者さんを任せています。僕が途中で診た患者さんを任せるのではなく、一人の患者さんを最初から任せます。それで初めて、自分の施術の結果として返ってきます。

**「そういった教育の結果、大阪院の開院につながっているわけですね。」**

これまでも、何人か独立して自分で開業しました。完全に自分で一国一城の主としていくわけじゃないけど、最初はお金もありません。僕も最初は実家の四畳半を借りてそこからスタートしました。僕は幸運にもこの場所に開院できましたが、せっかく良い技術があっても、金銭的な理由で利便性の良い場所にテナントを借りることができないかもしれません。ですから、開院場所を提供し、施術の技術だけではなく経営にも少し携わってもらおうようにして、開業してもらおうようにしています。大阪院は分院のような形です。完全に私が手を離したわけではなく、必要があればサポートします。

**「そこで、西洋医療と東洋医療の違い、野口院長の統合医療への考えについてお聞かせください。」**

中国の病院は院内に東洋、西洋の両方があり、まさに統合医療なんです。西洋医学でまかなえないものは、東洋医学でまかないます。東洋医学に来たけれども腰が痛いなら、レントゲンをとるなら行き来がありますし、胸が痛いなら漢方薬だけでなく心電図も撮ることになります。心電図に異常がなければ東洋医

療に回す、これが統合医療なんです。日本の場合、完全に医療形態が別になっていますのでそれができていません。僕ができることは、地域の多くのお医者さんとの交流をとり、頭を下げて挨拶に回って、お食事と一緒にいるほどの関係になることだと思います。

例えば相手の先生が婦人科なら、東洋医学ではこんなことができません」と積極的に伝え、患者さんがこういう状態の時は「ぜひ紹介してください」と逆に、こちらでこんな状態の時は「検査をしていただきたいと思います」と伝えるわけです。

**「日本の統合医療は、限界があるということですか。」**

僕は中国のりの資格を持っているのですが、欧米では中国のほりの免許を持つ医師が例えばドイツの病院で働くことが可能です。そういったことを日本政府は受け入れていません。中国のほりの先生が日本で開業する場合、日本の学校に行って勉強し直す必要があります。例えは、中国

す。そういった環境なので、なかなか中国の先生が日本に来ることにはない状態です。僕が通っていた中国の大学では、ドイツやイギリスに留学に行くような制度はないです。日本は統合医療にはかなり遠いですが、鍼灸師のレベルが低いのも大きな問題なので、病院長の先生も鍼灸を信頼していません。それでもきちり説明して、実際に話して僕がちゃんと勉強しているの分かってもらえれば信用してもらえます。なかなかそんな機会もないので、日本の場合、自分から動くしかないのです。

**「対面での地域交流によって、処置医療を登美ヶ丘治療院で全てまかなえるということですか。」**

ここに地域の人がなせたくさん来られるかという、患者さんが別で通っている病院の先生と交流があるので、患者さんの病状を先生に聞くこともできます。逆に別の地域の病院から紹介されて、患者さんが来られることもあります。これがこの地域の統合医療です。こういう形でしか日本では無理です。

**「まさに、野口院長が「から業き上げた地域の統合医療の形が、ここにあり」と感じます。保険との関わりはどのようにですか。」**

中国では鍼灸に保険が利くので、患者さんの負担が少なく治療ができますが、日本は完全に実費になります。例えは、中国

では一日おきに来てくださいと言いますが、日本ではそれが経済的に難しいです。治す方法が分かっているでも、そこまで患者さんに負担を求められないというのが、ずっと昔から今まで抱えているジレンマです。限られた健康保険の財源の中で、新たに鍼灸の保険制度を組み入れていくということに非常に否定的だと感じています。組み入れると短期的には確かにお金はかかりますが、長期的に考えれば、例えば全然治らない痛みを抑えるために10年間痛み止めを処方されている人が鍼灸を受けることによって、薬が必要なくなればプラスになるケースも出てくると思います。それくらい長期的な視点で考えてほしいです。カナダでしたら国民皆保険で自己負担もゼロです。その代わり、福祉のために他で高い税金が取られます。ただし、保険の適用範囲は日本ほど広くはなく、実費の範囲が日本より広いです。日本で国民健康保険以外にがん保険をかけますよね。なぜならがんの先進医療は保険の適用外だからです。それと同じようにカナダでもそう一つの別の保険に入ります。その保険内容に「鍼灸を含めます」というものが含まれています。カナダではかなり鍼灸も保険が利くようになってきました。

## 日本にたった一つの「地域の統合医療」を实践

### 地域の医者との西洋医学とも交流を密に

**「患者に対する配慮についてです。」**

患者さんが一般的な病院に行くと6000円の診療費です。でも、3割負担なら実際に払うのは2000円ぐらいです。これがうちの治療院であれば1時間の施術で6000円いたるところになると、患者さんはまるまる6000円を負担することになります。病院の3倍の額を患者さんは支払うわけです。

3倍のお金をいただくのに、他の病院と同じ設備や清潔感では納得してもらえません。ですから、料金に見合う外観や内装を心掛けています。あとは体の調子が悪いから当院に来られるわけなので、なるべくリラックスできるようにも思っています。これと同じコンセプトで大阪院も作っています。

**「将来の目標は。」**

今まで一人でやってきましたが、医師が責任を持って患者さんを診られる拠点を増やしていきたいです。当院 大阪や名古屋から来られる方もいますので、近畿圏内の利便性の良い場所を開院できればと思います。

日本にはいろいろな治療の方法があります。ところが、中国のほり治療法は統一されています。保険適用されるので監視が入るからです。監視が入るので一番効果の高い手法がベシックとなって統一されています。日本の西洋医学でも、勝手に薬を出し過ぎないように監視が入っています。ところが、日本のはり治療は保険適用外なので監視がない結果、自己流がまかり通っています。僕がこのやり方を開発したと言って、患者さんが納得してしまえばそれが成り立ってしまいます。

世界は鍼灸医療に目を向けてみると、平成30(2018)年にWHO(世界保健機関)に代替医療の候補として認められています。医学として認められるためにいろいろな報告をあげたり、いろいろな研究チームを作りWHOと折衝して最終的に認められました。残り5%に韓国人や日本人が入っています。

日本はマイノリティーなので、日本のほりのやり方が王道になることはないです。患者さんからすれば、ある治療院ではほりを一本だけ打たれたけれど、別の治療院では100本打られたというようなことが起きます。そんなおかしなことはないですよ。でも日本ではそれがまかり通っています。

それを是正するのは僕一人ではできないので、僕と同じ思いを持った方と一緒に、また一つ治療院を広げていってもらおうかなと思います。それは、もはや当院だけの目標ではなく、日本の鍼灸治療を国際標準まで引き上げるためです。



カフェのようなスマートさが魅力の登美ヶ丘治療院＝奈良市中登美ヶ丘2丁目

日本政府は受け入れていません。中国のほりの先生が日本で開業する場合、日本の学校に行

て勉強し直す必要があります。例えは、中国

では一日おきに来てくださいと言いますが、日本ではそれが経済的に難しいです。治す方法が分かっているでも、そこまで患者さんに負担を求められないというのが、ずっと昔から今まで抱えているジレンマです。限られた健康保険の財源の中で、新たに鍼灸の保険制度を組み入れていくということに非常に否定的だと感じています。組み入れると短期的には確かにお金はかかりますが、長期的に考えれば、例えば全然治らない痛みを抑えるために10年間痛み止めを処方されている人が鍼灸を受けることによって、薬が必要なくなればプラスになるケースも出てくると思います。それくらい長期的な視点で考えてほしいです。カナダでしたら国民皆保険で自己負担もゼロです。その代わり、福祉のために他で高い税金が取られます。ただし、保険の適用範囲は日本ほど広くはなく、実費の範囲が日本より広いです。日本で国民健康保険以外にがん保険をかけますよね。なぜならがんの先進医療は保険の適用外だからです。それと同じようにカナダでもそう一つの別の保険に入ります。その保険内容に「鍼灸を含めます」というものが含まれています。カナダではかなり鍼灸も保険が利くようになってきました。



●広くて清潔感あふれる治療室 ●安らぎの中で治療が受けられるように気配りされた院内

